保育

カンバ類を主とした林の間伐

問　林齢20年くらいのウダイカンバ林があります。保育間伐に着手したいと思いますが，まだ時期は早いでしょうか。選木のしかたについてもお教え下さい。　（滝上町　Eさん）

答　間伐開始時期の目安としては，枝の枯れ上がりに着目するとよいでしょう。少なくとも一玉以上はとれる高さ，4m以上は枯れ上がっていなければいけません。できれば8mくらいまで枯れ上がっているのが，望ましいと思います。

ウダイカンバ林ですと，もうそれくらいは枯れ上がっているのが普通です。これ以上放置すると，樹冠が小さくなって間伐手遅れとなるおそれもありますので，できるだけ早く着手するのがよいと思います。ミズナラなどを主とする林の場合ですと，おそらくまだ枯れ上がりは不十分で，しばらく放置しても手遅れとなるおそれはないはずです。

では実際の選木にはいりましょう。試験場の裏山に，ほぼ同じような条件のウダイカンバ林がありますので，これを実例にして選木のしかたを示してみます。

この林はウダイカンバが2,700本/haあり，ミズキ，シナノキなど他樹種を含めると5,000本/haに達します。樹高10m以上になっているのは，ほとんどがウダイカンバで，1,000本/haあります。これを，保育の対象として考えます。

胸高直径40cm以上を目標とする場合，最終的には100本/ha程度が残ることになります。余裕をみて300本/ha程度を主伐候補木（立て木）として選びます。立て木の周囲にあって，立て木の生育の妨げになっている木を間伐します。間伐率は30％くらいになります。ミズキ，シナノキなど他の樹種は，立て木を守る副木として残します。

立て木としては，まっすぐで枝下高の高いものを選びましょう。下部で曲がりがあっても，それより上部がまっすぐで，追い上げれば一玉以上とれそうな木は合格とします（写真－1）。曲がりのひどい木，下部に太い枝のある木などは不合格です（写真2）。（造林科　菊沢喜八郎）

写真1
1：残す木：下部で曲がっているが，1の位置より上部がまっすぐ。
2：伐る木：曲がりがはなはだしい。

写真2
3：残す木：太くてほぼまっすぐ，枝下高も高い
4：伐る木：3に比べて細く，曲がる